

2021年度 法科大学院

第1期入学試験問題

2時限

民法

(論文集)

試験時間 50分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民法]

設問

Y会社（以下では、単に「Y」とする。）は、自動車およびその部品の販売を目的とする会社である。

A（本件事故当時、28歳）は、Yの販売課に勤務する者であるが、会社の業務での出張中（以下、「本件出張」という。）、X運転の自動車に追突し、Xを負傷させた（以下、「本件事故」という。）。本件事故は、Aが居眠り運転をしていたため、赤信号で止まっていたXの自動車に後ろから追突したものである。

Yにおいては、通勤に自家用車を利用することが禁止され、出張の際にも、自家用車の使用は禁止されており、出張に自家用車を使用する場合には、Yに届け出て、その許可を得ることが必要とされていたが、Aは、Yに無断で本件出張に自家用車で出かけていた。

この場合において、Xは、Yに対して、本件事故による負傷の治療費および慰謝料を請求することができるかを検討しなさい。なお、問題の検討にあたって、場合分けが必要な場合には、場合分けをして答えなさい。

（解答は全て解答用紙に記入すること）